保存版

長門市

木屋川

洪水ハザードマップ

はじめに

水防法の改正に伴い、令和３年９月に山口県において木屋川流域における「想定しうる最大規模の降雨で想定される浸水区域」等が新たに指定・公表されました。

このことを受けて、「長門市木屋川洪水ハザードマップ」を改定しました。

このハザードマップを活用いただき、大雨により想定される災害を知ることで、対策を考え、もしものときに備える一助となることを目的としています。

令和４年２月

長門市防災危機管理課

わが家のタイムラインシート

避難所情報	避難先の名称（施設など）	移動時間	対象とする災害（○を付ける）				
			洪水	土砂	高潮	その他	備　考
避難先①		分					
避難先②		分					
緊急連絡先	**氏　名**	**間　柄**	**電話番号**				**メ　モ**
避難先①							
避難先②							
避難先③							

わたしと家族の避難行動

平時の備え

【避難訓練】　月　日　訓練に参加

【防災情報】

【避難準備】　避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備

【その他】

警戒レベル1　(2~3日前)　早期注意情報（警報級の可能性）

□やることメモ　記入例：・気象情報の確認 ・非常用持ち出し袋の確認

警戒レベル2　(気象状況が悪くなる)　大雨・洪水注意報／氾濫注意情報

□やることメモ　・河川水位をインターネットで確認（山口県土木防災情報システム）　・開設避難所をハザードマップや防災危機管理課で確認（23-1111）

警戒レベル3　発表　時ごろ　大雨・洪水警報／氾濫警戒情報

(災害のおそれあり)　高齢者等避難

□やることメモ　要配慮者避難開始：・戸締りを確認 ・ガス元栓を締める ・ブレーカーを落とす

警戒レベル4　見込　時ごろ　土砂災害警戒情報／氾濫危険情報

(災害のおそれ高い)　避難指示

□やることメモ　避難開始　避難先に到着：・避難したことを親戚・知人に知らせる ・避難所内外の情報収集

［ポイント］警戒レベル3（相当）の発表時間をメモし、夜間に警戒レベル4（相当）となる見込みの場合は、避難開始の時間を早める

警戒レベル5　大雨特別警報、氾濫発生情報

(災害発生または切迫)　緊急安全確保

（発生後）　※もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や建物の２階以上に移動

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

大雨・洪水注意報　大雨と洪水警報（土砂災害警戒情報）　大雨特別警報

10ミリ～20ミリ	20ミリ～30ミリ	30ミリ～50ミリ	50ミリ～80ミリ	80ミリ以上
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	どしゃ降りで、傘をさしていても濡れる。	バケツをひっくり返したように降る。寝ていても雨の音に気付く場合がある。	ゴーゴーと滝のように降り、低地では、道路冠水などが始まる。	息苦しくなるような圧迫感があり、大雨報与災害が発生する可能性がある。
1時間雨量 10mm以上20mm未満 やや強い雨	1時間雨量 20mm以上30mm未満 強い雨	1時間雨量 30mm以上50mm未満 激しい雨	1時間雨量 50mm以上80mm未満 非常に激しい雨	1時間雨量 80mm以上 猛烈な雨
●雨の音で話し声が良く聞き取れない。 ※長時間続く時は注意が必要。	●ワイパーを速くしても見づらい。 ●側溝や下水、小さな川があふれる。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	●マンホールから水が噴出する。 ●土石流が起こりやすく、多くの災害が発生するおそれがある。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

平均風速 10m/s以上15m/s未満	平均風速 15m/s以上20m/s未満	平均風速 20m/s以上25m/s未満	平均風速 25m/s以上
●風に向かって歩きにくくなる。 ●傘がさせない。 ●樋（とい）が揺れ始める。	●風に向かって歩けない。 ●転倒する人もいる。 ●雨戸やシャッターが揺れる。	●しっかりと身体を確保しないと転倒する。 ●風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	●立っていられない。 ●屋外での行動は危険。 ●樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径
大型（大きい）	500km以上800km未満
超大型（非常に大きい）	800km以上

強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

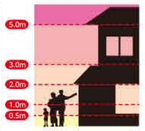
集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は困難で、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

洪水に備えて

浸水深の目安

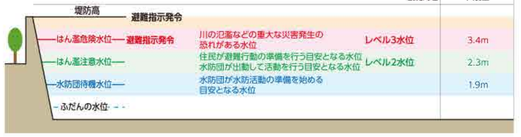
2階の屋根以上が浸水する程度	5m以上の区域
2階まで浸水する程度	3.0～5.0m未満の区域
1階まで浸水する程度	0.5～3.0m未満の区域
床下浸水	0.5m未満の区域



○洪水ハザードマップは「計画規模降雨（おおむね70年に1度の大雨）」と「想定最大規模降雨（おおむね1000年に1度の大雨）」を想定して作成しています。

○川がはん濫しない場合でも、低い土地などは床上・床下浸水などが起こる場合があります。

○実際は、想定と異なる浸水深になったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。



山口県土木防災情報システム

災害に備えて

どう避難すればいいの？

大雨・洪水の時はこうして避難

●足元に注意

水中の溝等に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は出来るだけ真ん中を歩きましょう。

●ロープにつながって

小さい子供などは大人とロープで体をつなぎましょう。

●子供やお年寄りを安全に

足の不自由なお年寄りは背負い、小さい子供はベビーバスに載せる方法もあります。

●車は使わず、歩いて避難

あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。

●ひざ上まで水につかると歩きにくくなります。

洪水の中での避難はできるだけ避けましょう。歩ける水の深さは50cm程度が限度です。

●危険なところは避ける

崖ぎわ、狭い道、がけや川のそばは避けましょう。垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。

その他避難の時に注意すべきこと

●家に避難先、安否状況のメモを残す

避難するときの服装のポイント

- ヘルメット等
- 長そで、長ズボン
- 長靴は水が入るとかえって動きづらくなるので×、水中でも脱げにくく歩きやすいひも靴は○
- 軍手、手袋
- 非常持ち出し袋

災害に関する情報

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
警戒レベル5	災害発生又は切迫	命の危険　直ちに安全確保！ 既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保 ※1
		警戒レベル4までに必ず避難！	
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 速やかに避難場所に避難しましょう。外に出ることが危険と思われる場合は近くの安全な場所や自宅の2階など、より安全な場所に避難しましょう。	避難指示（注）
警戒レベル3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難　※2 避難に時間のかかる方（高齢者、障がい者、乳幼児等）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は避難の準備をしましょう。	高齢者等避難
警戒レベル2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認 避難に備え、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨・洪水・高潮注意報
警戒レベル1	今後の気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める 気象情報等の最新情報に注意し、災害への心構えをしましょう。	早期注意情報

危険度大　市が発令　気象庁が発表

※1市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない
※2警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである
(注) 避難指示は、令和3年の災対法改正以前の避難勧告タイミングで発令する

自分の身を守るために早めの避難を心掛けましょう

土砂災害に関する情報や、市からの避難情報が発令されたときは、早めに近くの避難場所などに避難してください。避難場所への避難が困難なときは、頑丈な建物の2階以上で、危険な斜面や崖から離れた場所に避難してください。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、山口県と下関地方気象台が発表する情報で、今すぐに土砂災害が発生してもおかしくない状況です。

避難を開始するタイミング

あなたが避難しようと思ったとき、外は大雨など「外に出たくない」と思わせる状況になっていることもあります。
しかし身を守るためには、早めの避難（自主避難）が大切です。危険を察知したら速やかに避難しましょう。

雨の降り方が異常だ

山の様子がおかしい

土砂災害警戒情報が発表された

避難指示等が発令された

災害の種類

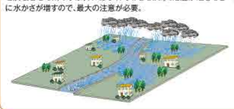
大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫（浸水）

雨量の増加によってもたらされる氾濫（浸水）には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水による氾濫（浸水）」と、街中の排水が間に合わず、水路などからあふれ出す「内水による氾濫（浸水）」の2タイプがあります。

外水による氾濫（浸水）

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



内水による氾濫（浸水）

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何m に達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、市役所などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。土砂災害の危険箇所については、ハザードマップの土砂災害警戒区域を確認してください。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

土石流

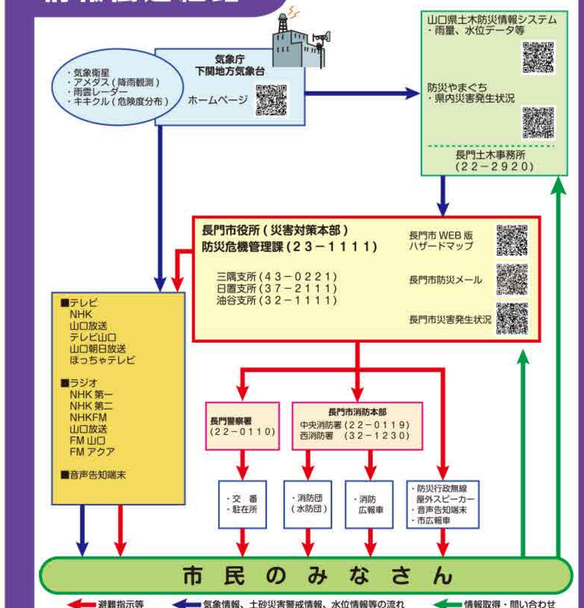
山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地滑り

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

情報伝達経路



NTT災害伝言ダイヤル

災害時に被災地への電話・携帯電話がかかりにくい場合でも、親戚・知人等への伝言を確認できるシステムです。

伝言の録音方法	伝言の再生方法
①「１７１」にダイヤル ②録音する場合は、「１」をプッシュ ③自宅の電話番号をプッシュ ④メーセージを話す（３０秒）	①「１７１」にダイヤル ②再生する場合は、「２」をプッシュ ③連絡を取りたい方の電話番号をプッシュ ④メーセージを聞く（３０秒）

※サービスの開始は、NTT で決定し、テレビ・ラジオ等で報道されます。

非常時持出品の準備＆チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品（例）

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ・懐中電灯

□ラジオ
□懐中電灯（出来れば一人に1つ）
□電池（多めに用意）

救急医療品

□常備薬　□絆創膏
□傷薬　□包帯
□風邪薬　□胃腸薬
□鎮痛剤　□お薬手帳

貴重品

□現金　□免許証
□印鑑　□権利証書
□健康保険証
□預金通帳

感染症対策用品

□体温計
□マスク
□消毒液

非常食品

火を通さないで食べられるもの、食器など
□カンパン　□缶詰
□非常用食品　□エネラルウォーター
□缶切り　□粉食べき
□紙皿　□紙コップ
□水筒

その他

□衣類（下着・上着など）　□タオル
□生理用品　□粉ミルク
□離乳食　□紙おむつ
□ウェットティッシュ　□カッパ
□ヘルメット　□ライター
□ラップフィルム　□防災マップ（本書）
（止血や食器にかぶせて使う）

非常時用備蓄品（例）

災害復旧までの数日間（最低3日）を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水

□飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター（1人1日3リットルを目安に）
□貯水した防災ダンクなど

非常食品

□お米（缶詰・レトルト・アルファ米も便利）
□缶詰・レトルト食品
□梅干し・調味料など
□ドライフーズ・チョコレート・アメ（菓子類など）

燃　料

□卓上コンロ
□ガスボンベ
□固形燃料

その他

□生活用水（風呂・洗濯機などに貯水）
□毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
□調理器具（なべやかんなど）
□バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を！

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、救護セット、ガムテープ、地図、筆記用具（マジックなど）
スコップなど。

阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。